報道機関各位　　2015 年 6 月 8 日

認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク

1 型糖尿病の患者・家族の会による同疾患の「根絶」を目指した先進的医療研究への研究費助成 1 件を決定しました。

・2008年度（2 件)、2010 年度(3 件)、2012 年度(2 件)、2013 年度（3 件)、そして 2014 年度（3 件）に続き、通算１４件目の助成となります。
・今回は 1 型糖尿病の発症のきっかけとなるウイルスの発見・特定をシステム開発し、「予防」にむけたワクチンにつながる課題へ助成します。
・今後も患者・家族のみならず、広く一般の方々、企業などからもこの基金への寄付協力をお願いしていきます。

＜概要＞

このたび、全国の 1 型糖尿病の患者･家族の支援団体「認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク」では 1 型糖尿病の根絶につながる先進的な研究課題に対しての研究費助成 1 件（300 万円）を実施することとしました。応募された 12 件の研究課題の中から採択された課題は「1 型糖尿病の発症のきっかけとなるウイルスの発見・特定をシステム開発し、将来的には発症予防のワクチン開発」に関するものです。

この研究助成は当法人が 2005 年に設立した「1 型糖尿病研究基金」への患者･家族等からの寄付金を原資にしたもので、今回で**通算 14 件、累計1800万円の研究費助成**となります。基金の原資は主に患者･家族からの寄付で、その中には阪神タイガースの岩田稔投手（1 型糖尿病患者）からの大口の寄付も含まれます。

日本 IDDM ネットワークでは「2025 年に 1 型糖尿病の根治実現」という目標を設定し、患者･家族はもとより広く一般の方々や企業などに寄付への協力を呼び掛けています。

＜背景と詳細内容＞

■1 型糖尿病とは

「1 型糖尿病」はいわゆる生活習慣病として知られる 2 型糖尿病とは異なり、原因は不明ですが、比較的短期間に膵臓から生命維持に必須のホルモン「インスリン」が全く分泌されなくなる疾患で、日本では全糖尿病患者の数%と推定されています。

現在の治療法は絶対的に不足しているインスリンの補充療法のみで、患者は食事に応じたインスリンを注射（1 日 3～5 回程度）や機械（インスリンポンプ）により持続的な注入を行っています。今のところ膵臓移植･膵島移植以外では、インスリンの補充を継続することが生きるために必須の対処法です。患者は副作用としての低血糖症や慢性的高血糖による合併症などのリスクと不安を抱えながら日々療養しており、患者･家族はその根治療法の確立、インスリン補充からの解放を心から願っています。

■基金設立と募金活動の経緯

2004 年4月に日本で初めてインスリン産生細胞(膵島)の移植「膵島移植」が京都大学で実施され、患者や家族に 1 型糖尿病根治への期待感が高まりました。一方、米国では 40 年以上も前から「1 型糖尿病研究財団（JDRF）」という 1 型糖尿病患者の親達が設立した研究助成団体が、世界中の 1 型糖尿病に関する研究に対し、最近では毎年 100 億円以上の助成を行っています。

日本でもこのような先進的な医学･医療の研究を促進し、患者･家族の手で研究を支援する必要性を感じ、2005 年 8 月に「1 型糖尿病研究基金」を設立しました。その 3 年後にようやく基金は 200 万円に達し、2009 年 1 月に初めて 2 件の助成を行いました。その後 2010 年度に 3 件、2012 年度に 2 件、2013 年度に 3 件、そして昨年度は 3 件（うち 1 件は 300 万円）の研究助成を実施しました。

■助成対象として採択された研究課題

前回よりその研究助成対象分野を従来の「根治」のみに限定せず、現在のインスリン補充療法を発展させる「治療」から、新たな発症を防ぐ「予防」まで拡げ、1 型糖尿病の「根絶」を目指すことにしました。助成額も上限を 300 万円まで引き上げ、今回は総額 300 万円の助成枠に対して 12 件の応募があり、外部の専門家と患者・家族による審査によって次の 1 件(300 万円)の助成課題を採択しました。

○研究課題名と助成額：

「 ウイルス糖尿病高感受性マウスの開発
―糖尿病誘発性ウイルスの同定によるワクチン開発を目指して－ 」　助成金額：300 万円

○研究代表者：

九州大学大学院医学研究院　永淵　正法　教授

○研究内容の概要：

1 型糖尿病の患者は、時に、風邪症状を伴うので、ウイルス感染がその原因であることが疑われます。恐らくウイルス側の糖尿病を起こす力と、人がそのウイルスにかかり易いことが相まって、1 型糖尿病になってしまうと推測されます。最近、マウスとヒトに共通するウイルス糖尿病の原因遺伝子を発見できましたので、本研究では、糖尿病を起こし易いウイルスを発見・特定できるシステムを開発し、将来的には 1 型糖尿病の発症予防につながるワクチン開発を目指します。

＜法人概要＞

○法人名：認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク
○代表者：理事長　井上龍夫
○所在地：佐賀県佐賀市柳町 4-13
○ＵＲＬ：　http://japan-iddm.net/
○設立の経緯・事業内容等

平成 7 年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災では、被災地の患者はインスリンの入手等に大変な苦労を強いられました。この震災を契機に全国の患者・家族の連携を図るために、同年 9 月に発足しました。平成 24 年 8 月には全国初の所轄庁（都道府県・政令市）認定のＮＰＯ法人（寄付に対して税制優遇措置有り）となりました。

この根治に向けた研究助成の活動以外にも政策提言（20 歳以上の患者への支援策、介護職員によるインスリン注射の実現等）、調査研究（大規模災害対策、情報提供誌「1 型糖尿病お役立ちマニュアル」の作成等）、シンポジウム開催、療育相談等に取り組んでいます。昨年からは発症直後の患者・家族の支援策としてこの疾患の理解と療養に必要な情報をひとつのバッグに詰めて届ける「希望のバッグ」プロジェクトも開始しています。

＜お問い合わせ先＞

認定特定非営利活動法人日本ＩＤＤＭネットワーク　理事長　井上龍夫　080-5127-2759（18 時以降）
又は事務局 TEL：0952-20-2062　（この件はできるだけ理事長へ直接お問い合わせください）